

令和3年度行政事業レビューシート (内閣官房)

事業名	ICT人材育成 (情報通信技術調達等適正・効率化推進費)			担当部局庁	内閣官房副長官補	作成責任者	
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定) 年度	令和2年度	担当課室	情報通信技術 (IT) 総合戦略室	内閣参事官 吉田 宏平 内閣参事官 奥田 直彦	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	○総務省設置法第4条第1項第6号 ○高度情報通信ネットワーク社会形成基本法第20条			関係する計画、通知等	○政府における電子計算機利用の今後の方策について (昭和48年8月30日閣議決定) ○e-Japan重点計画-2002 (平成14年6月18日IT戦略本部決定) ○電子行政推進に関する基本方針 (平成23年8月3日IT戦略本部決定) ○「世界最先端IT国家創造宣言」 (平成25年6月14日閣議決定) 及び同工程表 ○「政府機関におけるセキュリティ・IT人材育成総合強化方針」 (平成28年3月29日サイバーセキュリティ対策推進会議 (CISO等連絡会議)、各府省情報化統括責任者 (CIO) 連絡会議決定) ○デジタル・ガバメント推進方針 (平成29年5月30日IT戦略本部・官民データ活用推進戦略会議決定) ○橋渡し人材のスキル認定の基本的な考え方 (平成29年9月5日サイバーセキュリティ対策推進専任審議官等会議・各府省情報化専任審議官等会議合同会議決定) ○橋渡し人材のスキル認定の基準 (平成30年1月31日サイバーセキュリティ対策推進専任審議官等会議・各府省情報化専任審議官等会議合同会議決定) ○政府情報システムの予算要求から執行の各段階における一元的なプロジェクト管理の強化について (令和元年6月4日デジタル・ガバメント閣僚会議決定) ○世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画 (令和元年6月14日閣議決定) ○デジタル・ガバメント実行計画 (令和2年12月25日閣議決定)		
主要政策・施策	IT戦略			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	行政の情報化が広く深く浸透してきた中、各府省における情報システムを活用した業務改革・サービス向上等を担う人材、情報システムの中核的要員を計画的に育成・確保することにより、政府内のICTガバナンスの強化・徹底及びICT人材の育成・活用を実現すること。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	以下の分野において、集合研修及びeラーニングを実施している。 ①PMO構成員、PJMO構成員等橋渡し人材に対する研修 (注)PMO (program management office) は各府省のIT統括組織、PJMO (project management office) は各府省でITを担当している主な部局をいう。 ・重点分野別研修 (調達・積算、プロジェクトマネジメント、情報セキュリティに関する研修) ・情報技術分野 (データベース、ネットワーク) に関する研修 ②情報リテラシー向上に関する研修等 ③府省共通システムの利用者等に対する研修 令和2年度は、集合研修8コース29回、eラーニング11コース132回実施 (随時実施している③を除く)。 なお、オンライン研修システムの整備及び運用に係る経費については、令和2年度より内閣官房情報通信技術 (IT) 総合戦略室の下で一括要求・一括計上 (内閣官房 新02-0014 オンライン研修システムの整備及び運用 (情報通信技術等適正・効率化推進費))。						
実施方法	直接実施、委託・請負						

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求			
		予算額・執行額 (単位:百万円)	当初予算	-	-	-	-	-	
補正予算	-		-	-	-	-			
前年度から繰越し	-		-	-	-	-			
翌年度へ繰越し	-		-	-	-	-			
予備費等	-		-	64	30	-			
計	0		0	64	30	0			
	執行額	-	-	57	-	-			
	執行率(%)	-	-	89%	-	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	-	-			
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	-	-	-						
	計	-	-						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 -年度	目標最終年度 3年度
	情報システム統一研修のうち、橋渡し人材育成に係る研修(課長補佐級)の修了者数を令和3年度の時点で令和2年度実績以上	情報システム統一研修のうち、橋渡し人材育成に係る研修(課長補佐級)の修了者数	成果実績	人	-	-	89	-	-
			目標値	人	-	-	159	-	-
			達成度	%	-	-	56	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	集合研修受講者一覧								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	情報システム統一研修の集合研修コース開催数	活動実績	回	-	-	29	-	-	
		当初見込み	回	-	-	37	38	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	情報システム統一研修のeラーニングコース開催数	活動実績	回	-	-	132	-	-	
		当初見込み	回	-	-	132	132	-	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込		
	$X = \text{年度執行額(円)} /$ $Y = \text{集合研修等受講延べ人日}$	単位当たりコスト	円	-	-	-	-		
		計算式	X/Y	-	-	-	-		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込		
	$X = \text{年度執行額(円)} /$ $Y = \text{eラーニング受講延べ人日}$	単位当たりコスト	円	-	-	-	-		
		計算式	X/Y	-	-	-	-		

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策		(総務省政策)政策08:電子政府・電子自治体の推進									
	施策		政府におけるセキュリティ・IT人材の十分な育成等を実施するため情報システム統一研修を実施									
	測定指標	定量的指標			単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標	目標年度		
									- 年度	3 年度		
		情報システム統一研修のうち、橋渡し人材育成に係る研修(課長補佐級)の修了者数(プロジェクト推進系)		実績値	人	-	-	63	-			
				目標値	人	-	-	74	-			
		定量的指標			単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標	目標年度		
									- 年度	3 年度		
	情報システム統一研修のうち、橋渡し人材育成に係る研修(課長補佐級)の修了者数(セキュリティ系)		実績値	人	-	-	26	-				
			目標値	人	-	-	85	-				
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係												
情報システム統一研修の実施を通じた橋渡し人材の育成等により、国民の利便性向上と行政運営の合理化、効率化及び透明性の向上等の実現に資する電子政府の担い手を輩出する。												
新経済・財政再生計画改革工程表 2020	取組事項	分野:										
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時	2年度	3年度	中間目標	目標最終年度		
						年度			年度	年度		
		成果実績										
		目標値										
	達成度		%									
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)			単位	計画開始時	2年度	3年度	中間目標	目標最終年度		
						年度			年度	年度		
		成果実績										
		目標値										
達成度		%										
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係												

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	政府において、国民サービスの向上、業務の効率化等を図るためには、ICTの活用が不可欠であり、そのための人材育成は極めて重要となっている。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本研修は、国の行政機関の業務の特性(政策的な動き・状況等)を踏まえた情報システムに関する専門的な知識・技術を備えた中核的な要員を育成するとともに、セキュリティ・ITに関する一定の専門性と、所管行政に関する十分な知識・経験を有し、民間等の高度専門人材と一般行政部門との橋渡しをする「橋渡し人材」を育成する必要があるため、国において実施することが適当である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	情報システムに係る業務の高度化への対応や、高まる情報セキュリティの脅威に対応し、情報システムを活用した業務改革・サービス向上等が行える人材を多数育成することが肝要であることから、本研修は適切かつ優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調達は原則として、一般競争入札によって行っており、システムの運用・保守等については、結果として一者応札となったものがあるが、多くの事業者が参入機会を得られるよう、複数事業者からの見積りの徴収を行うとともに、調達仕様書を受領した事業者であって応札しなかった者から、入札に参加しなかった理由を聴取している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	なお、一部の調達について、期間が10か月と短期間であるため、現行契約を延長した方が低価で借入れができ、また予算上も継続を前提とした金額となっており、現行契約事業者以外から調達した場合は、正確な接続・調整が行えず、業務の継続に著しい支障が生じるおそれがあるため、競争性のない随意契約としている。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	受講定員・受講者数が増加する一方で、予算額は減少しており、限られた予算に基づく効率的な事業の執行に努めている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途は、情報システム統一研修の円滑な実施に必要なものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	調達を原則として一般競争入札で行うことなどにより、コスト削減を図っている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	△	新型コロナウイルス感染拡大により、集合研修の一部を中止せざるを得なかったため。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	前年度の研修実績を踏まえて翌年度の研修実施計画を策定しており、おおむね見込みに見合ったものとなっている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	作成した教材については、研修に使用するだけでなく、政府職員一般も利用可能となるように努めている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果		<ul style="list-style-type: none"> 25年度には、平成24年度行政事業レビュー(公開プロセス)での指摘を踏まえ、eラーニングコースの一部廃止等の見直しを実施した。 26年度には、「世界最先端IT国家創造宣言」(H25.6.14 閣議決定)及び同工程表を受け、研修コースの見直し、拡充に着手し、全体の受講者数を増加させた。このことから、ICT人材多数育成という目標に向け、一定の成果が現れている。
	改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> 本研修については、受講率等を省みるにより研修開催回数・開催日数等の見直しを実施するとともに、受講後の修了テストや受講者に対するアンケートの実施により研修効果を把握している。さらに、その結果を次年度の研修計画に反映する等の取り組みを実施しているが、今後も更に当該取り組みを工夫し、事業の効果を引き出すことに努める。 29年度に、外部有識者から、「研修の定員(アウトカム指標)、開催数(アウトプット指標)が指標として設定されているが、研修の実施によってもたらされる人材の育成、活用についての指標が不足しているように思われる。」との所見が示されたことを踏まえ、研修の主な目的である橋渡し人材育成(特にその最終段階である課長補佐級)のために開催されている研修の修了者を継続的に輩出することが、その目的に貢献できているものと考え、その修了者数を指標とした。

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

終了
予定

次年度予算計上省庁において、適切な執行に努めるとともに効率的に執行した実績を、引き続き概算要求に反映させること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

予定
終了
通り

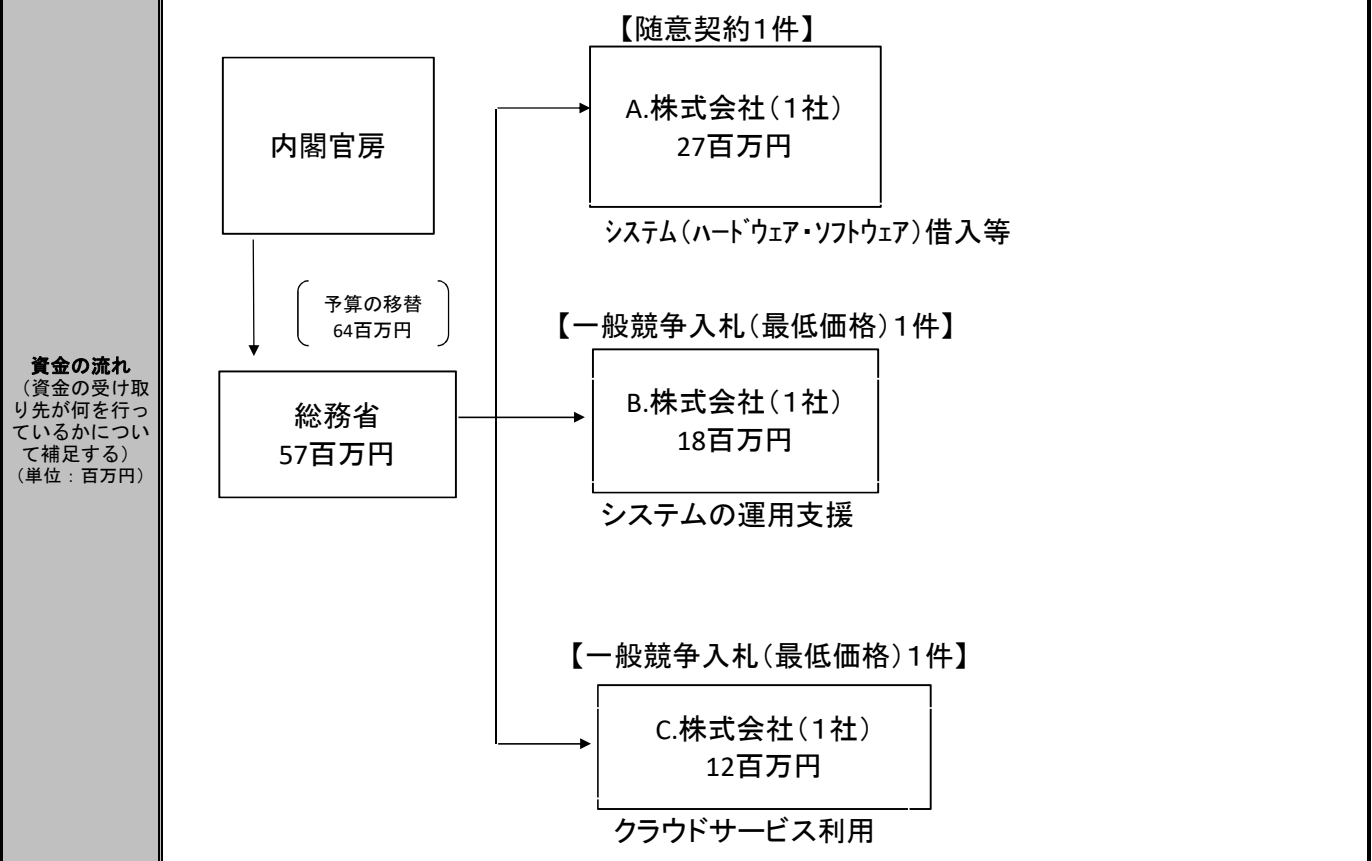
デジタル庁(R3.9~)において、引き続き、適切な執行に努める。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	-	-	-
平成23年度	-	-	-	-
平成24年度	総務省(0033)	-	-	-
平成25年度	総務省(0036)	-	-	-
平成26年度	総務省(0035)	-	-	-
平成27年度	-	-	-	-
平成28年度	総務省(0034)	-	-	-
平成29年度	総務省(0037)	-	-	-
平成30年度	総務省(新30-0034)	-	-	-
令和元年度	総務省 - 0035			
令和2年度	内閣官房 - 新02 - 0014			

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.株式会社エヌ・ティ・ティ・データ			B.株式会社NTTデータSMS			
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)	
	機器調達	eラーニングシステムのハードウェア、ソフトウェアのリース等経費	27	運用管理	eラーニングシステムの運用支援業務に係る経費	18	
	計		27	計		18	
	C.株式会社富士通ラーニングメディア			D.			
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)	
	運用管理	eラーニングシステムの運用業務に係る経費	12				
	計		12	計		0	
費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載							チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	9010601021385	eラーニングシステムの借入れ	27	随意契約 (その他)	-	-	

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社NTTデータSMS	2010601032678	eラーニングシステムの運用支援業務の請負	18	一般競争契約 (最低価格)	1	91.9%	-

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社富士通ラーニングメディア	8010401078156	情報システム統一研修実施のための管理システム等提供業務の請負	12	一般競争契約 (最低価格)	1	79.1%	-